

ママとねこ

三蔵子小 二年 ひこさか るり

見てしまったのだ。

ある日、ママとペットのねこがふとんのところでなかよくしていたのを。何で、ママはわたしのことをかまってくれないのかな。わたしもかまってほしいよ。

「もうおこった。」

わたしのいかりパーセントは、九十パーセントになった。「ふん、もういいわよ」って思ったけれど、やっぱりかまってほしい。こんどはおこらないようにしよう。

でも、見ちゃったな。さみしくて、がまくんみたいにふしあわせな気持ちになっちゃうよ。

「あーあ。」

と、わたしはため息をついた。

「なんでママはねこばかりかまうの？」

と、ママに聞いてみた。わたしより小さいから？かまってくれなくてさみしいよ。ねこの方が小さくて、わたしは大きいからかまってくれないのかな。大きくても、かまってほしいな。小さいほうだけかまうのはいやだよ。

「はーかなしいな。」

と、思わず声が出てしまった。すると、ママがこう言った。

「るりもかまってあげているからね。ねこよりもだれよりも一番だよ。だから安心してね。」

わたしはもう一回聞いてみた。

「ねえ、ママは何でねこばかりかまっていたの。」

ママは、

「ねこがこっちに来るからママはかまっちゃうんだよ。」

と、教えてくれた。そうだったんだ。わたしはやっとママの気持ちも分かった。

つぎの日。また同じことがおこった。こんどはかなりおちこんだ。いかりが一〇〇パーセントになった。そのときは、すぐくらはが立った。

「あーもうがまんできない。」

とわたしが言うのと、ママは、

「今は、ねこがいるからあとでね。」

と言った。

「がーん。」

わたしは一どおこるのをやめた。おちつこう。一どおちついたら、元気が出てきた。少しおちついて考えた。

「るりもかまっていあげているからね。ねこよりもだれよりも一番だよ。」

ママが言っていたことを思い出した。たしかにママはわたしのこともちゃんとかまってくれている。ママに言おう。

「ママ、今までかまっていなくてぶつぶつ言ってごめんなさい。こんどからはもう言わないよ。」

すると、ママはこう言った。

「分かってくれてありがとう。」

ママの気もちが分かってしあわせな気もちになった。わたしはママがすきだし、ママもわたしのことがすき。そう思うと、もつとしあわせな気もちになった。そして、ほっとした。また、いつもの毎日もどってきた。